

本日の話題

- 1 はじめに
- 2 構想目的と目標
- 3 何が実現したか
- 4 **コロナ禍での対応とそれ以降**
- 5 生徒たちの成長につながったか
- 6 課題となったこと・今後に向けて

コロナ禍でどうなったのか？

連携校、連携企業・団体とのネットワークが財産に

コロナ禍でも攻めの姿勢

オンライン・ハイブリッド型研修・会議が日常に

全国高校生SRサミットはオンラインの特性を活かし発展
(連続講演会・参加校増・小学生の参加まで拡大)

ALネットワーク校・連携企業

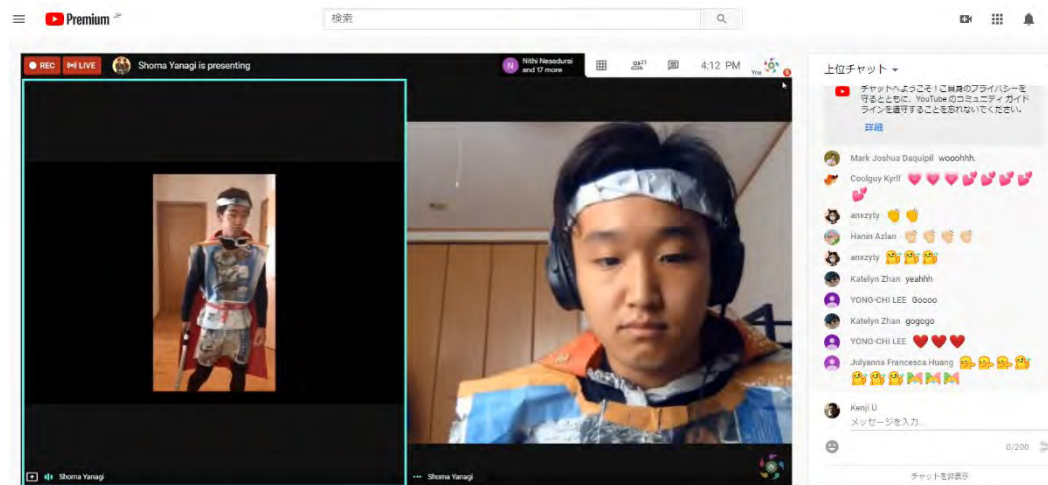
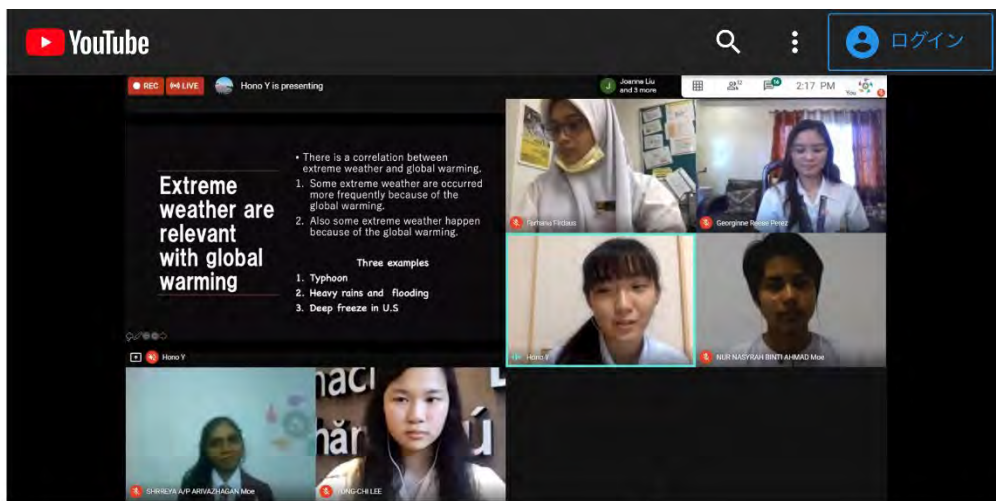
コロナ対応 緊急 AL Network 勉強会

- | | | |
|--------------------|-------|---|
| 第1回 AL network 勉強会 | 4月17日 | ・新型コロナの影響による各校の状況確認 |
| 第2回 AL network 勉強会 | 4月23日 | ・ZOOMマニュアル（立命館宇治:K）・PBL型授業マニュアル（立命館宇治:M）
・せんたんネット～#allwecando Project～（三崎高校:K） |
| 第3回 AL network 勉強会 | 4月30日 | ・Prezi教材（立命館:B）・YOU TUBE教材（福岡雙葉:O） |
| 第4回 AL network 勉強会 | 5月7日 | ・オンライン授業と留学中学生とのオンラインHRの取り組み（立命館宇治:S）
・G suiteとGoogle Teach from homeの活用について（福岡雙葉） |
| 第5回 AL network 勉強会 | 5月14日 | ・学内での取り組みについて（聖光学院:R）
・研修などについて（アイ・シー・ネット:H） ・タクトピア:N・タイガーモブ :N |
| 第6回 AL network 勉強会 | 5月21日 | ・クラブ活動について（立命館宇治:Y）
・ONLINE海外研修などについて（GiFT:K） ・ビヨンド・コロナ・コンテストについて（立命館守山） |
| 第7回 AL network 勉強会 | 5月28日 | ・生徒目線と学校目線に分けメリット、デメリットを出し合う。 |
| 第8回 AL network 勉強会 | 6月4日 | ・オンライン授業を経験した今、今後の学校はどのような姿になるか
・継続できること、できないこと、発展できることなど具体的な解決策を考える |



Sri Aman Environmental and English Youth Leadership Online Summit 2020 マレーシアの連携校主催国際会議オンライン参加

- ・ 3部構成 ポエトリーコンペティション・コスプレコンペティション・フォーラム
 - “自然の叫び”を詩にして朗読 ・ 再生可能な素材を使ってヒーローを作り、なぜそのヒーローなのかをプレゼン
- ・ それぞれの発表者と司会のみがGoogle Meetに接続し、他のメンバーはストリーミング配信視聴
 少人数で確実に議論できるようにと考えられた（ネットワークが弱くても全体に影響が出ないように接続限定）
- ・ コンペティション発表は事前作成ビデオ 本人からの解説・審査コメント双方向リアルタイムで
- ・ フォーラムの発表と議論はオンライン



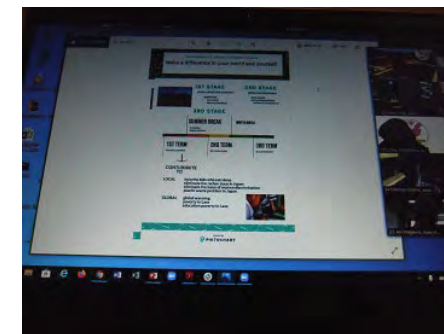
2020年度の取り組み

4月 **オンライン授業の試行錯誤**
 連携団体と毎週学習会をオンライン開催
 APU国際学生とオンラインディスカッション開始

5月 **反転授業が進むも登校再開**
 On Line の長所と短所が見えてくる
 生徒会活動・課外活動・保護者会もオンライン開催

6月 **オンライン国際会議・海外研修準備開始**

8月 **マレーシアの学校主催オンライン国際会議**
 ISN2.0 ISIF (オンライン国際会議)
 オンラインラオス研修



9月 **World Youth Meeting (オンライン国際会議)**

10月 **オンライン研究会 (コア探究)**

11月 **全国高校生SRサミット FOCUS + Global Youth Fair (本校主催)**
 国内参加校 52校、オブザーブ校 5校 + **GYF (オンライン国際会議) 海外参加校 6校**

12月 **MUN (オンライン) ASEP (オンライン)**

1月 **第2回オンラインラオス研修**

2月 **オンラインフィリピン研修**

年間 **カリキュラム開発**
 高校3年までの完成年・全員が課題研究
 コア探究、CSL、科学と人間生活、
 文科探究、SDGs、GLS

ALネットワーク校・連携団体

On-Line Laos 研修 現地1日目

- ・いきなり食堂からの中継で開始。食堂から、ラオスの街の今を歩きながら坂雲寮へ。
中継はテレビ番組の現地レポートを見ているように演出・テレビとの大きな違いは双方向
- ・支援している高校生とは、事前に準備したクイズ（Kahootを使用）や質問交換などで交流。
- ・市場では、川魚専門店、豚肉専門店から宝石店まで様々なお店が混然となっている雰囲気を知る。
フランスパン山積のお店から、フランスの植民地であったことを知る。
- ・JamBoardを使って、話しそびれた質問や感想、気づきを共有

JamBoard https://edu.google.com/intl/ja/products/jamboard/?modal_active=none



ALネットワーク校・連携団体

On-Line Laos 研修 現地2・3日目

・竹細工職人

伝統工芸の重要性
新しい製品づくりの重要性
販路確保の重要性



・村の様子

町と違った景観
洪水被害が多い
家は手作り、何年もかけて完成

・中学校訪問

クレヨンしんちゃんを知っているのに驚き
努力家・帰宅後は家の手伝い
夢を持って勉強していて、学ぶ喜びがある
教員が不足
勉強したくても高校に行けない



・コーヒー農家Samboonさん

品質高いコーヒーを作るのに意欲。
片言でも英語が話せることが販路
拡大の鍵。

いくつかの品種を混栽で、病害虫に強くなり、良いコーヒーが採れる。
農園の周りにシェードツリーといわれる木やつる性植物で覆い、霜や風の害を防ぐ



・ラオスの人や環境にひかれて暮らす日本人

ラオスの方が自立できるような支援 技術支援だけではダメ
→ 販路がなければ売れない=技術定着しない

ALネットワーク校・連携団体

On-Line Laos 研修 分析データ

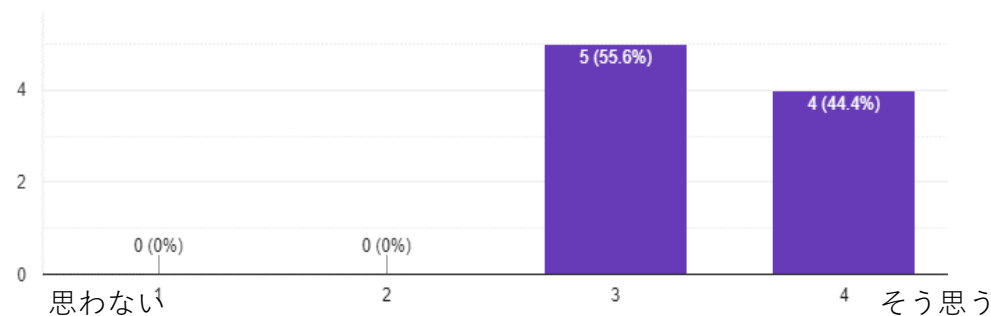
- ・満足度4.5/5で高評価・「臨場感」「新たな知識の習得」, 「複数校からの刺激」に高評価
- ・基本態度、自立心、チームワーク、情報収集、思考力、表現力、コラボレーション力、自己管理能力
8カテゴリーそれぞれにいくつかの質問。

チームワーク、コラボレーションとともに、思考力や情報収集力がやや低い傾向（下図比較）
お客様になりがちな生徒がややでてしまうことが課題

VII.コラボレーション力 3) 相手の話を熱心に聞き、相手の言いたいことを引き出すことを心がけた

9件の回答

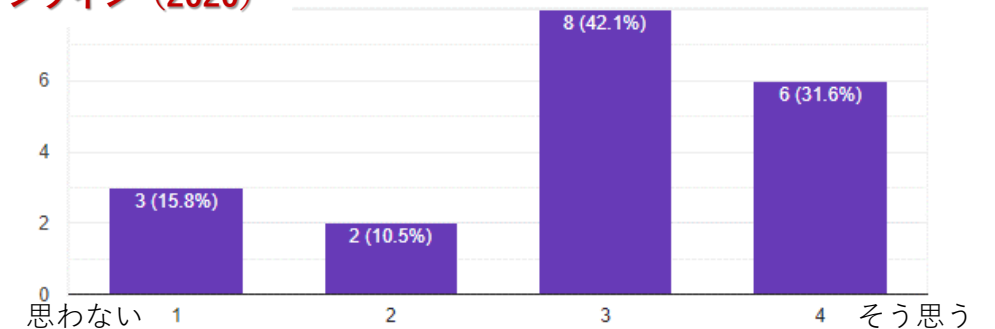
現地に行った場合 (2019)



VII.コラボレーション力 3) 相手の話を熱心に聞き、相手の言いたいことを引き出すことを心がけた

19件の回答

オンライン (2020)



ALネットワーク校・連携企業

オンラインフィリピン研修

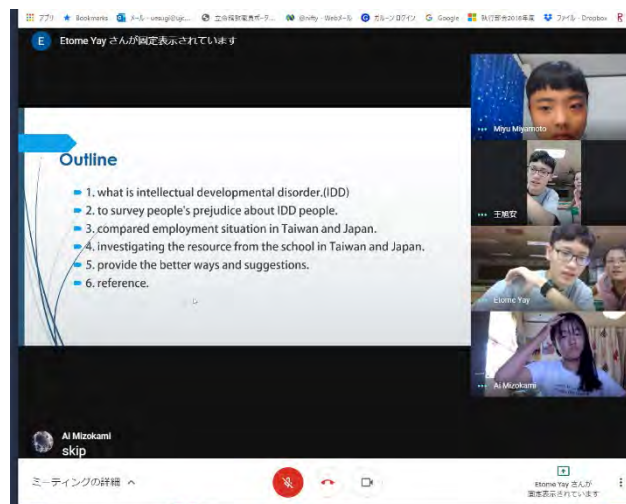
- ・ スラム地区の日常を知り、そこに暮らす人との交流
- ・ **通常は入り込めない場所にまで入り込めた**
- ・ パンデミックがフィリピン人の生活に与えた影響を知り、**日本との違いを考える**
- ・ **事前学習で参加者間**のつながり
- ・ **発言・質問の場の設定で参加意識**
- ・ **実際の活動につながる参加者も**
- ・ 現地の方と **目線を合わせてのPBL**へ



WYM実行委員会・学校法人立命館・学校法人日本福祉大学主催 → **一般社団法人設立**

World Youth Meeting (WYM) 2021 On-Line

- ・大会テーマに沿って、海外校と2校協働で課外解決の提案プレゼンテーションを作成し発表する
- ・大会の数か月前からオンラインで2校の生徒が議論を重ねる
アンケート調査やインタビューなどの調査も行う
大会直前1週間は対面で最後の仕上げ → すべてオンライン
- ・3つのバーチャル会場の上位作品を2日目に共有し、専門家からの高評を共有
- ・オンラインだからこそ講演が充実・文化交流・**Café Talkを入れたのが大好評(一見無駄な時間が重要)**
- ・**問題提起ビデオを5チームが作成し参加者が事前視聴 → Discussionセッションを強化**



ALネットワーク校・連携企業

Asian Student Exchange Program

- 大会テーマは『Invisible Enemy』
- WYMの姉妹会議。オンラインでは、事前にビデオでプレゼンを提出。提出ビデオが流れた後に、Q & A セッション。 <https://www.sli.do/> を使用。
- Slidoの使用で、質問が発表者に伝わりやすく、質問の取捨選択が可能。意地悪な質問がなくなった。**

発表を聞きながら質問をテキストで送れるようにしていました。話すのが少し自信のない生徒、聞くのがオンライン聞き取りにくいなどの欠点をなくすことができ、的確に質問を発問し、質問に答えられるようになりました。

- 2チーム参加し2チーム優選。

GROUP	Classroom A / Senior High Schools			
CODE	School (Taiwan)	School (Partner)	Time	SLIDO
8A1	測試用 For Testing	測試用 For Testing	10:30-10:45	Q
8A2	高雄高級商業職業學校 Kaohsiung Commercial High School	名古屋商業高校 Nagoya Commercial High School	10:45-11:00	Q
8A3	新興高級中學 Sinsing Senior High School	福井商業高校 Fukui Commercial High School	11:00-11:15	Q
8A4	高雄女子高級中學 Kaohsiung Girls' Senior High School	立命館中學校高等學校 Ritsumeikan Junior and Senior High School	11:15-11:30	Q
8A5	中山大學附屬國光高級中學 Guoguang Laboratory School, NSYSU	立命館宇治中學校高等學校 Ritsumeikan-Uji Junior and Senior High School	11:40-11:55	Q
8A6	中正高級中學(2) Jhong Jheng Senior High School (2)	立命館守山中學校 Ritsumeikan Moriyama Junior and Senior High School	11:55-12:10	Q
8A7	鼓山高級中學(1) Gushan Senior High School (1)	福祉大學附屬中學 Nihon Fukushi University Affiliated High School	12:10-12:25	Q



閉幕式與成績公布
DEC29(Tue)
Closing and Award Winners Announcement
2022/02/21



線上專題發表與討論-高中組(上午場)
DEC28(Mon)
Online Presentation and Q&A
Senior High Schools (Morning Session)



線上專題發表與討論-高中組(上午場)
DEC28(Mon)
Online Presentation and Q&A
Senior High Schools (Morning Session)



線上專題發表與討論-高中組(上午場)
DEC29(Tue)
Online Presentation and Q&A
Senior High Schools (Morning Session)

ALネットワーク校・連携企業

全国高校生SRサミットFOCUS + GYF

・全国高校生SRサミットFOCUS

7月実施から延期・オンラインでの実施に・・・コロナ禍において各校のプロジェクトが進展していないため
全国52校の参加・・・日本の高校の1% + オブザーブ校5校

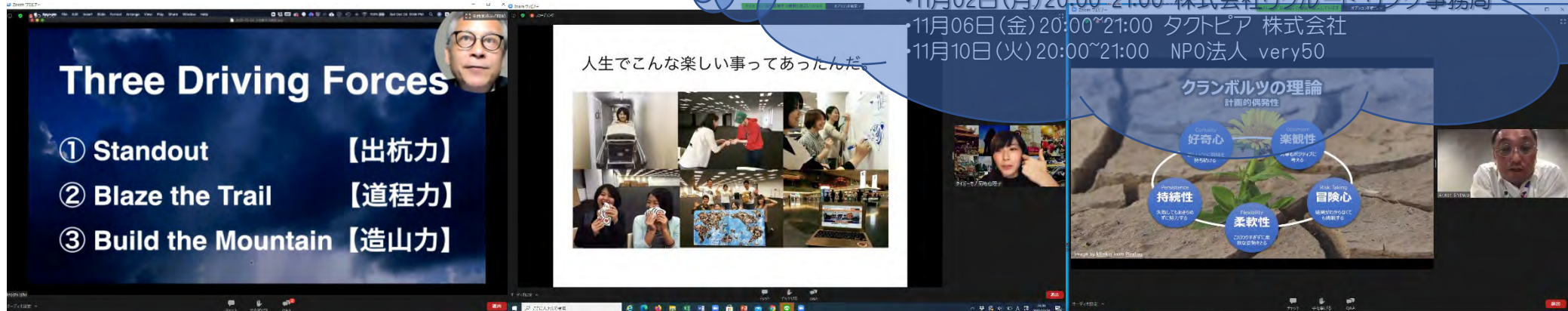
・Global Youth Fair (GYF) と同時開催

海外14校参加

・連続講演会

事前研修として、オンライン連続講演会
オンラインだからこそできたラインナップ

- ・10月25日(日) 10:00~12:00
マサチューセッツ工科大学メディアセンター副センター長 石井教授
WWLの連携企業(Learning in Context)開催の講演会に
参加という建付
- ・10月29日(木) 20:00~21:00 タイガーマーブ 株式会社
- ・11月02日(月) 20:00~21:00 株式会社リクルート リング事務局
- ・11月06日(金) 20:00~21:00 タクトピア 株式会社
- ・11月10日(火) 20:00~21:00 NPO法人 very50



全国高校生SRサミットの成長・発展

第4回全国高校生SRサミットの発展



コロナ禍でも、むしろオンラインの特性を活かし攻めの姿勢



FOCUSの成長・発展

FOCUS2021



国内外4会場でプロジェクトリーダー合宿

小学生・中学生・高校生の参加

WWL後も発展を自走できる仕組み作り・
WWL拠点地域を拡張

これまでの媒体+Slack, Miroなど
新たなオンライン媒体への挑戦

FOCUS2020



5000校の1%50校の参加
を目標

海外連携校の招待
4 countries

FOCUS WEEK
3 weeks 5 lectures

2週間のHangoutによる
社会人Mentor制度

Zoom, YouTube, Google meet
オンラインへの移行

FOCUS2019



2泊3日議論漬け合宿

優秀で温かいAPUフェロー陣

アイスブレイクフィールドワーク

来てよかったと思える取り組みに

連携企業によるワークショップ

社会人メンター 65名 39企業等

メンター 65名 39企業等

B-Bridge International, Inc.

CURIO Japan株式会社

HAYASE

Learning in Context

PwCコンサルティング合同会社

withRiver株式会社

クックパッド株式会社

コトバンク株式会社

タイガーモブ株式会社

トビタテ！留学JAPAN

ハワイ州観光局

フリーランス（キャリアコンサルタント、大学生支援キャリアセンター）

ベネッセコーポレーション STEAMフェスタ運営事務局

株式会社 シェンゲン

株式会社 毎日エデュケーション

株式会社 旅武者

株式会社MIRAling

株式会社 P H P 研究所

株式会社SUBARU

株式会社アイエスエイ

株式会社キャリアリンク

株式会社ドッツ

株式会社リクルート

京都認知症総合センター・カフェほうおう

公益財団法人大阪産業局

合同会社STUDY SHIFT

国際基督教大学

池坊短期大学（立命館宇治WWL海外交流アドバイザー）

東京農業大学

日本貿易振興機構 JETRO シンガポール

認定NPO法人アクセス

認定NPO法人カタリバ

武蔵野大学アントレプレナーシップ学部(市川高等学校卒業生)

毎日エデュケーション

立命館 東京キャンパス

立命館アジア太平洋大学

立命館大学

オブザーバー 9名 9企業等

株式会社LIXIL

タイガーモブ株式会社

広島女学院大学

共同ピーアール株式会社総合研究所

千葉県立小学校 教員

株式会社Locare

株式会社Freewill

株式会社クオリアワークス・旅武者

私立高校 教員

全国高校生SRサミット FOCUS全体 組織図

プロジェクトリーダー合宿

九州会場

福岡雙葉高校

タイガーマーブ

関西会場

立命館宇治高校

タクトピア

関東会場

市川高校

GiFT

海外会場

立命館宇治高校

アイ・シー・ネット

メンター管理

Learning in Context

FOCUS WEEK : Inspire High・タクトピア・
リング事務局長・元ミネルバ大学日本事務局長

全体統括 & 当日運営 : 立命館宇治高校

【WWL連携校企画】
オンライン
グローバルPBL
プログラム
"FLAG"

Online Global
PBL Program
"FLAG"

【WWL連携校限定】
世界中を舞台に探究する
グローバルなPBL型課外活動

大学生のサークル感覚 共通授業の代替の発想から

様々な学校から構築されるWWL ALネットワーク校を
横串で繋ぎ、生徒を混ぜる醍醐味

WWL連携校による学校の
垣根を越えた中高生の学びの場

- 立命館宇治高校様を中心としたWWL連携校が、合同参加。北海道から福岡まで、全国の中高生が、学校の垣根を越えて長期間に渡りプログラムに参加した。全国でも珍しい取り組み。
- ①1校だけでは難しい、②拠点校としての役割を果たせる、この2点において参加者の確保・学びの多様性。個人参加も可能である。を生み出すことができた。
- 中学生にも学びが開かれている。中学と高校が混合で実施したプログラムであった

全国の中高生が、長期間、同じ
プログラムで切磋琢磨

- 3か月の長期間だったため、短期に比べて学びの定着を起すこと、参加者同士の切磋琢磨を生み出せること。
- 全国の中高生を対象とし、異学年混合。オンラインの特徴を最大限生かし、インドネシア、南アフリカ、京都、など様々なエリアから起業家ゲストを呼び、参加者の世界を広げることができた。

Project Based Learning型で
生徒自ら課題設定

- 参加者自らが自分でプロジェクトを立ち上げ、その実践の一步目を踏むことがゴール。
- 地域や学校の特色で、探究のテーマが決まっていることも多い（地方創生、震災、平和、など）。本プログラムでは完全に個々人の内発的動機にフォーカスしていること。
- 与えられた課題ではなく、自己の内面を探究し、社会の中でのありたい姿を見出したうえで、自ら課題を設定することを目指した。

WWLプログラム 2021(ONLINE)

- 第1回APU国際学生とのディスカッション企画 7.16
- オンライン グローバルPBLプログラム FLAG 6.3-8.26
- World Youth Meeting 8.5-6
- 第3回全国高校生SRサミット FOCUS 7.31, 8.1
リーダー合宿 7.10-11 FOCUS WEEK 7.12-30
- Ritsumeikan Super Global Forum 11.9-13
- 第2回APU国際学生とのディスカッション企画 11.19
- Model United Nations MUN2021 12.13-15
- Asian Student Exchange Program 12.28-29
- ラオスオンライン海外研修 1
- フィリピンオンライン海外研修 3
- WWL研究報告会 / AFTER FOCUS 1.21-22
- 第3回APU国際学生とのディスカッション企画 2.4
- Global Youth Fair * * * *

2022/02/21



On-Line の長所・短所

- ・ 移動費用や移動時間がかからない
低コストで機会増・講演者も参加しやすい
- ・ 参加定員を増やせる
- ・ 多様な参加者を多様な地域から募れる
- ・ 短時間なら集中
- ・ 別のツールを組み合わせ活用しやすい
全員スマホ化PCの前
- ・ 事故や病気のリスクがなく引率負担が減る
- ・ 空気感が伝わりにくい
- ・ 全体が見えにくい
- ・ 相手の反応がわかりにくい
- ・ 休み時間や食事時間の会話を持ってない
- ・ 現地のネット環境や時差
- ・ 受講側は長時間の集中が難しい
- ・ 視聴者になりやすい（その場だけの体験・簡単に離脱）
- ・ 双方向でのやり取りには限界



On-Line でつながったから・・・

- ・ どんどん、現地とつながり、研修の枠を超えて動き出してしまった。

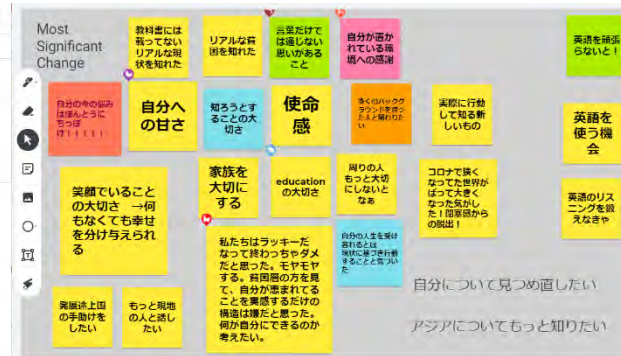


On-Line だからこそできること

- ・新しいツールに出会い、使いこなしていけるようになる

Slack、Google Drive・スプレッドシート、Mentimeter、Jamboard、Kahoot
Slackはプロジェクトの連絡・議論に最適 (Line使わなくてよい)

- ・通常、呼ぶことが難しいような専門家の話を聴くことができる。
MITメディアセンター石井副センター長・台湾デジタル大臣オードリー・タン
- ・今まで安全等の理由で行くことができなかったところにも入り込める。



With コロナ After コロナ

デジタルトランスフォーメーション

今、事例を蓄積して、これからの教育に活かすべき時期

コロナ禍の中で二つの受賞



IG コース “**廃棄苗を子供たちの教育のツールにすること**”

CHANGE MAKER U-18 未来を変える高校生日本一決定戦（テレビ東京・電通主催）

ポンズチーム **農林水産省大臣官房技術総括審議官賞（優勝）**

IM コース “**Global Youth Fair SURVIVE**”

全国高校生フォーラム（文部科学省主催）

GYF SURVIVE実行委員会チーム **文部科学大臣賞**



2チームの生徒の成長ビデオ作製中！ 年度末までに完成予定

GLOBAL YOUTH FAIR SURVIVE

2030 SDGsが達成されなかった世界を想定

そこからバックキャストिंगで問題解決を提案

海外参加校
6カ国・地域

国内9校
人数限定で
深い議論

Cambodia
Hong Kong
Malaysia
Philippines
Philippines

NGS Preah Sisowath High School
St. Clare's Girls' School
SMK (P) Sri Aman
Leyte Normal University, Integrated Laboratory School
Philippine Science High School System
PSHS - Eastern Visayas Campus
PSHS - Western Visayas Campus
PSHS - Central Luzon Campus
PSHS - Bicol Region Campus
PSHS - Cordillera Administrative Region Campus
PSHS - Southern Mindanao Campus
PSHS - Cagayan Valley Campus
PSHS - Central Visayas Campus
PSHS - SOCCSKSARGEN Region Campus
Sansin High School of Commerce and Home Economics
Nanyang Girls' High School

時差を考慮（無理しない）でアジア中心
コロナの学校閉鎖等で参加できなかった国の
学校（Indonesia・Thailandなど）も

Taiwan
Singapore

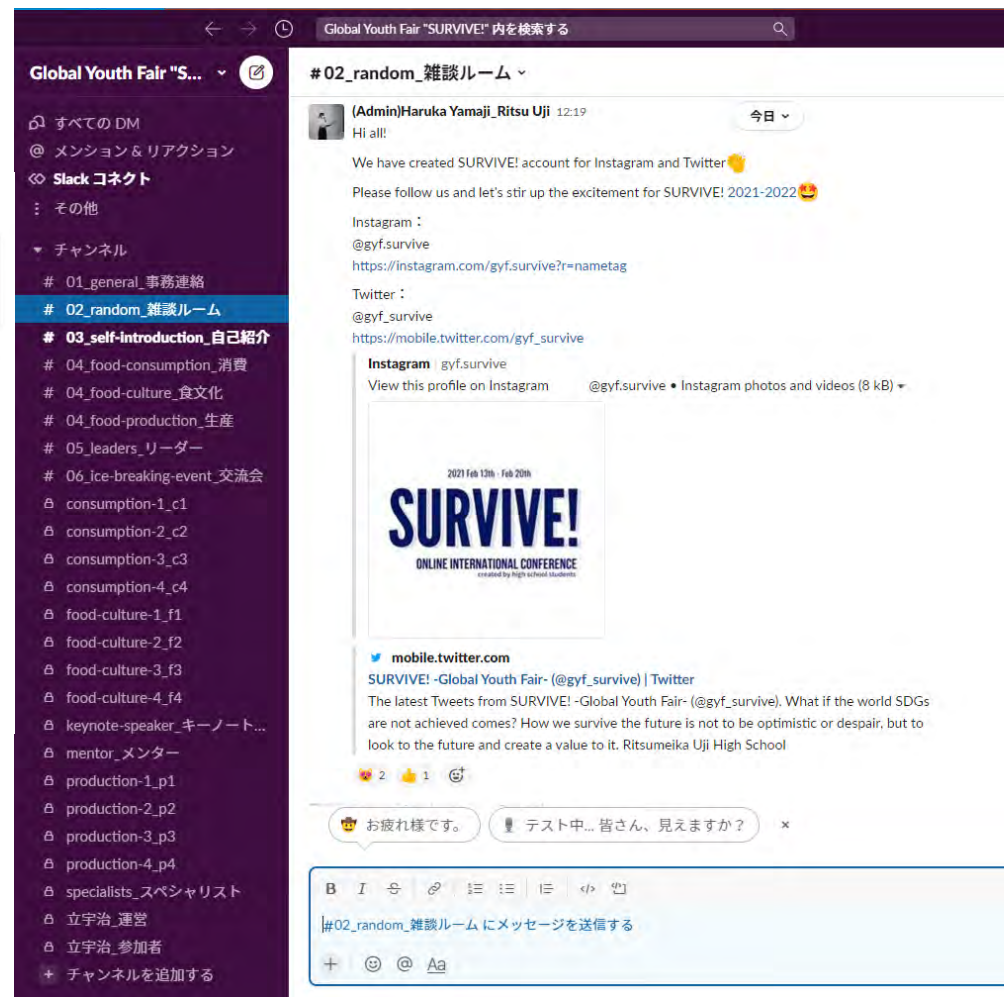
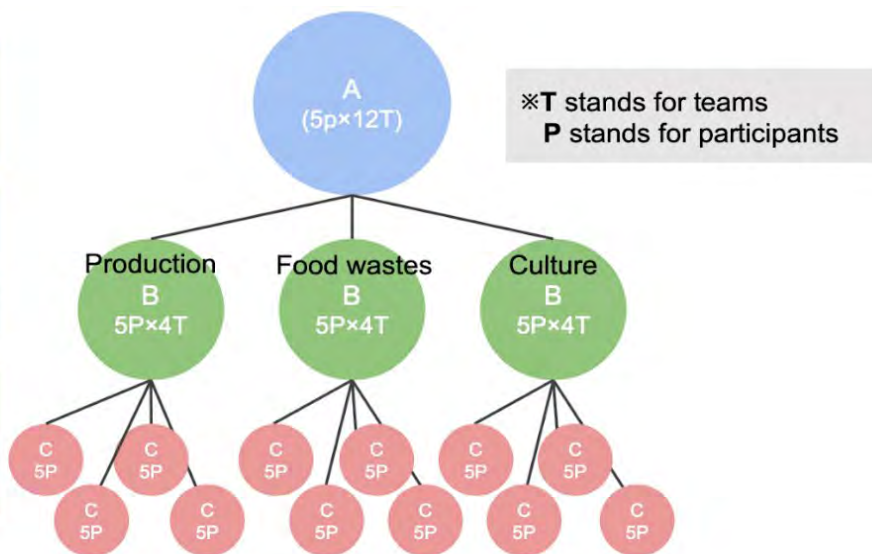
GLOBAL YOUTH FAIR SURVIVE

生徒実行委員会が計画・運営

Meeting A (60 members)
All participants

Meeting B (20 members)
Participants who have the same type of the problem

Meeting C (5 members + Mentors)
The minimum group this meeting is for creating the idea



今までの経験をフルに活かし、
実質議論を小グループで・Slackなどのツールを活用
公式日程外に、交流会、小グループ議論

GLOBAL YOUTH FAIR SURVIVE

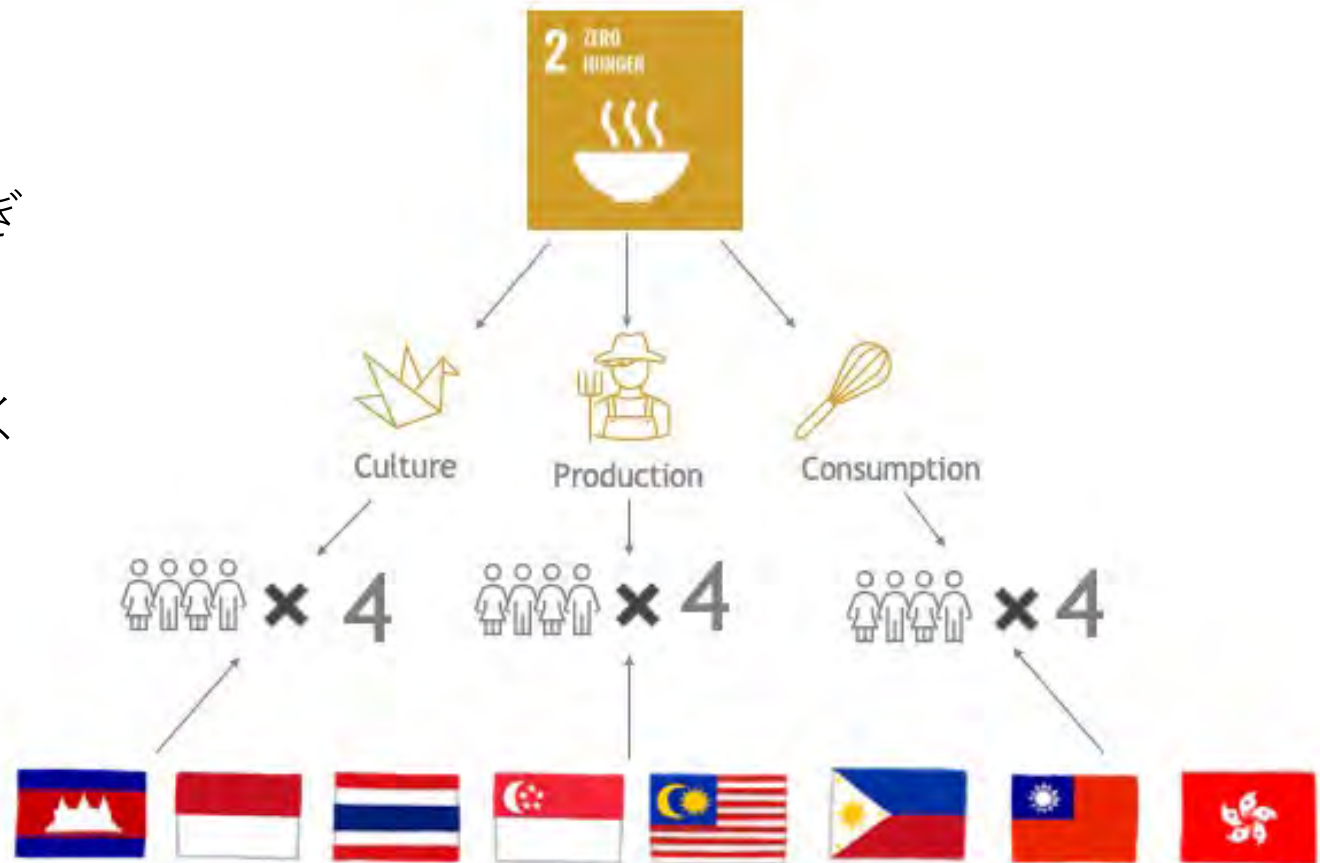
テーマ設定に紆余曲折

経験不足・理想が高すぎ

『食』について3分野に落ち着く

最終的に意見を統合

→ 大会宣言を作成



本日の話題・・・WWL総括と展望

- 1 3年間を終えるにあたって少し長めの所感
- 2 構想目的と目標
- 3 何が実現したか
- 4 コロナ禍での対応とそれ以降
- 5 **生徒たちの成長につながったか**
- 6 課題となったこと・今後に向けて

生徒の変化例

将来の見通しが無い生徒が激減！（キャリア教育の前進）

入学時



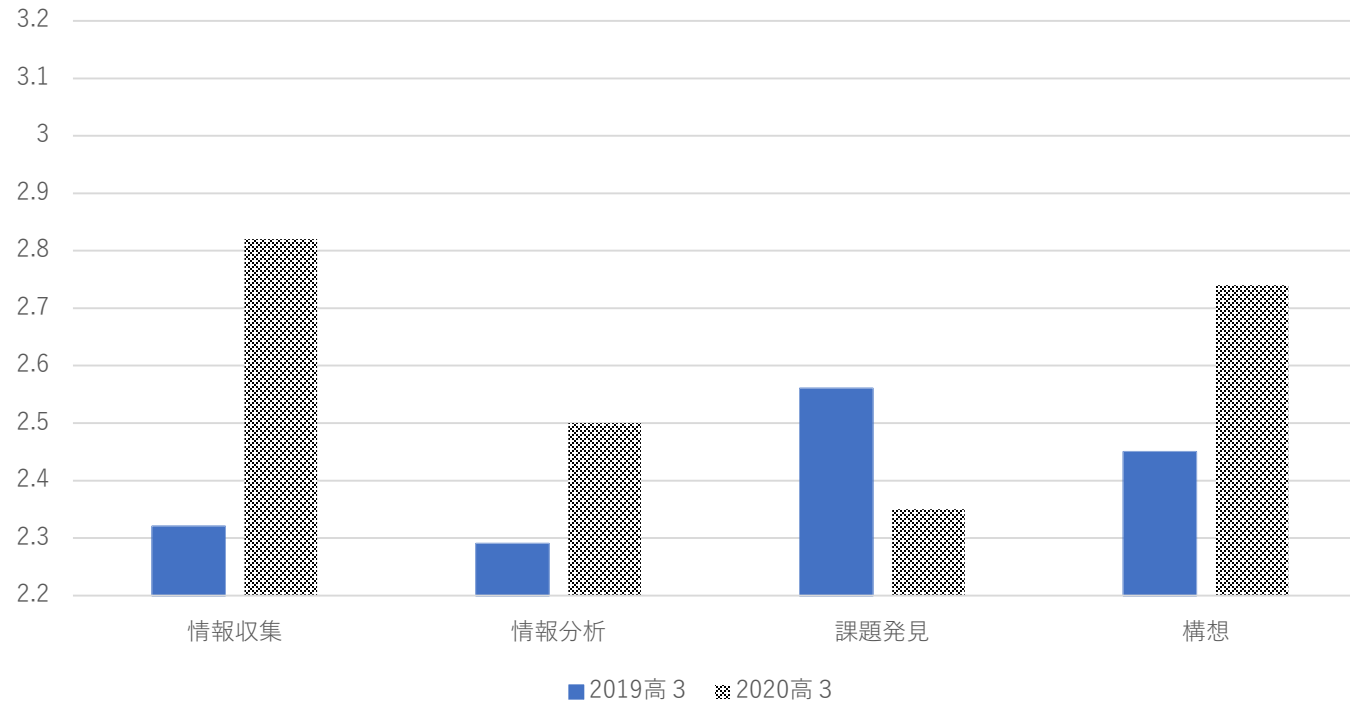
高1・1月



「将来の見通しが無い」 入学時48%（昨年度36%） → 1月27%（昨年度52%）

コア探究実施前の学年と比べても力がついている①

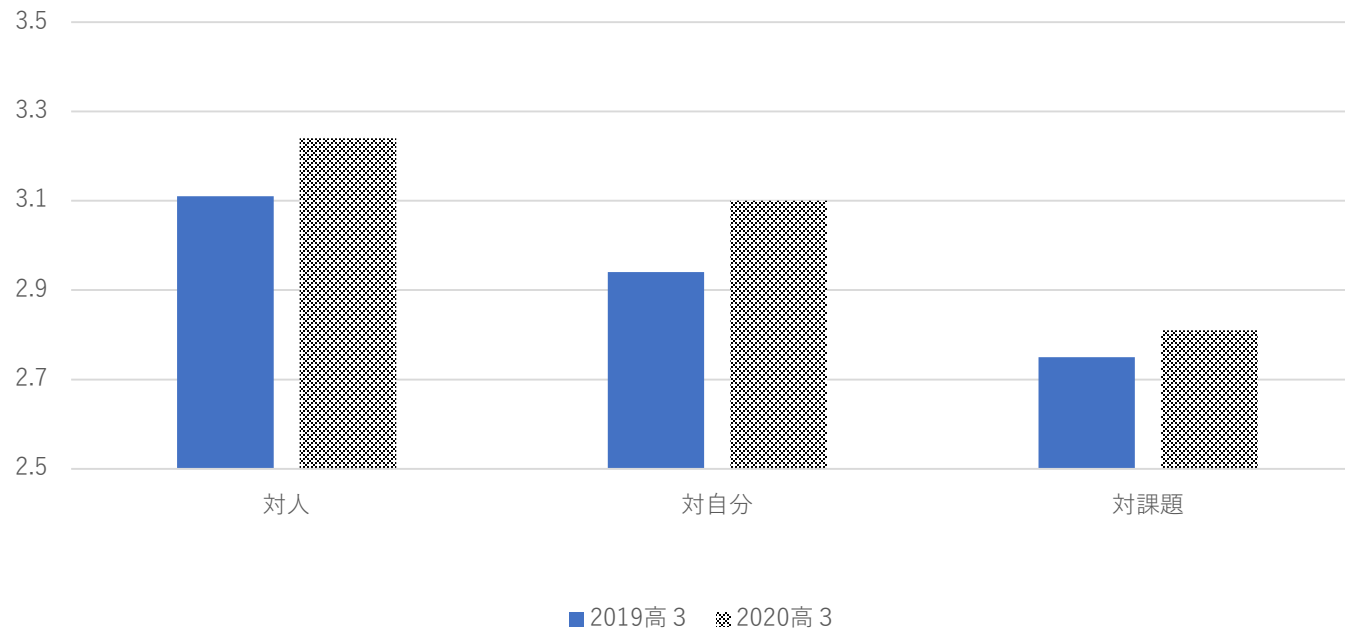
リテラシーの比較 (2019・2020)



学びみらいPASS リテラシーの比較
 (左が実施前、右が実施学年、卒業直前の比較)

コア探究実施前の学年と比べても力がついている②

コンピテンシーの比較 (2019・2020)



学びみらいPASS コンピテンシーの比較
 (左が実施前、右が実施学年、卒業直前の比較)

SGH時代とWWL時代の比較

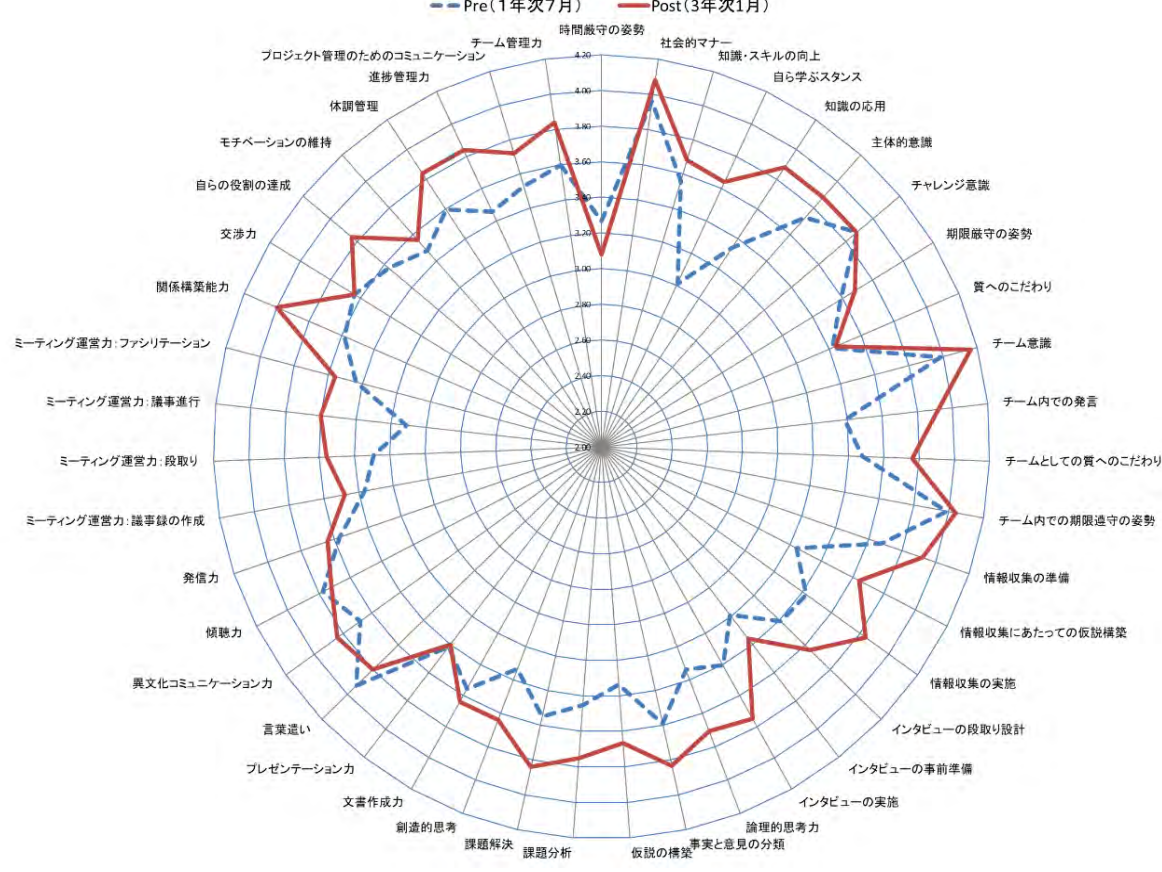
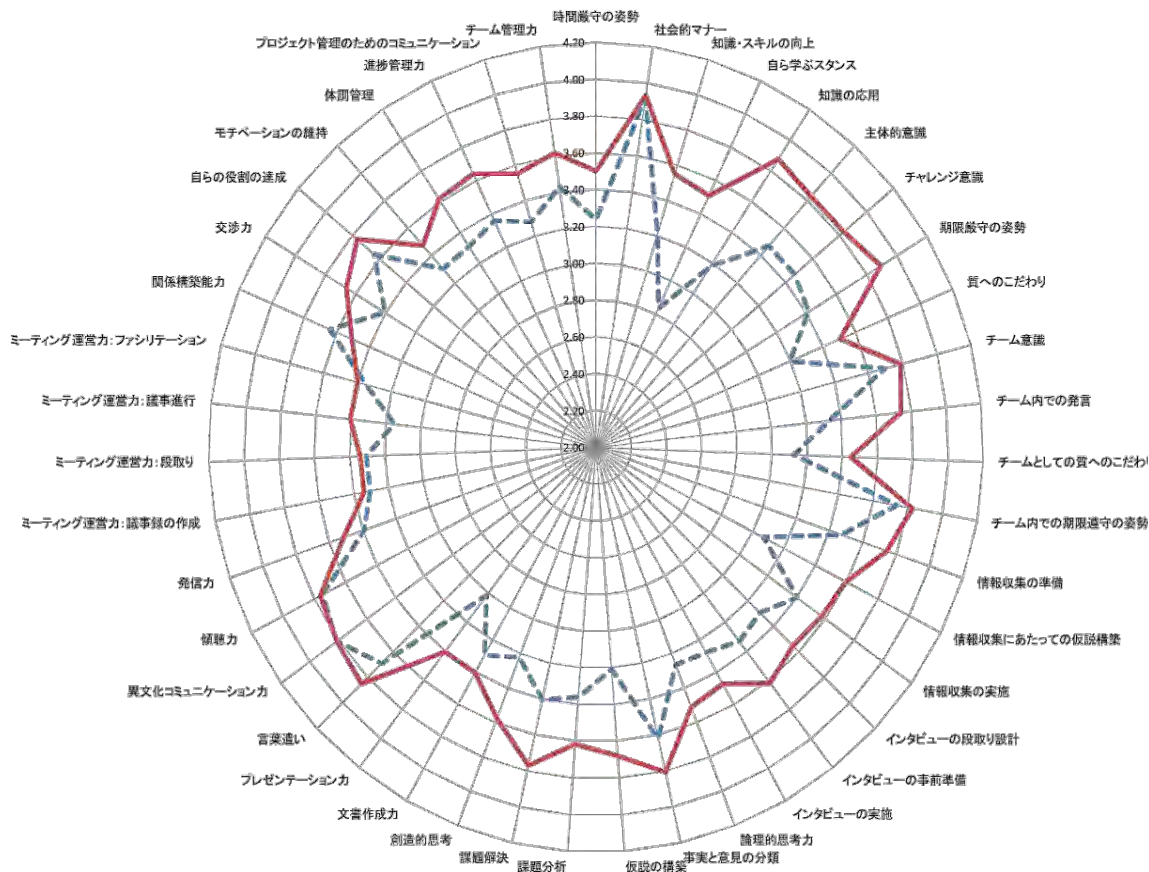
第3ステージの効果(2年次・3年次の比較)
 <生徒の自己評価>

--- Pre(3年次4月) — Post(3年次1月)

両方とも高1から高3まで、SGHとWWLを経験
 (左がSGH、右がWWL、1年または2年と卒業直前の比較)

高校1年—高校3年比較
 <生徒の自己評価>

--- Pre(1年次7月) — Post(3年次1月)



高校1年－高校3年比較
＜生徒の自己評価＞

SHGの効果(2年4月・3年1月の比較)
＜生徒の自己評価＞



— Pre(1年次7月)
 — Post(3年次1月)
 - - Pre(3年次4月)
 — Post(3年次1月)

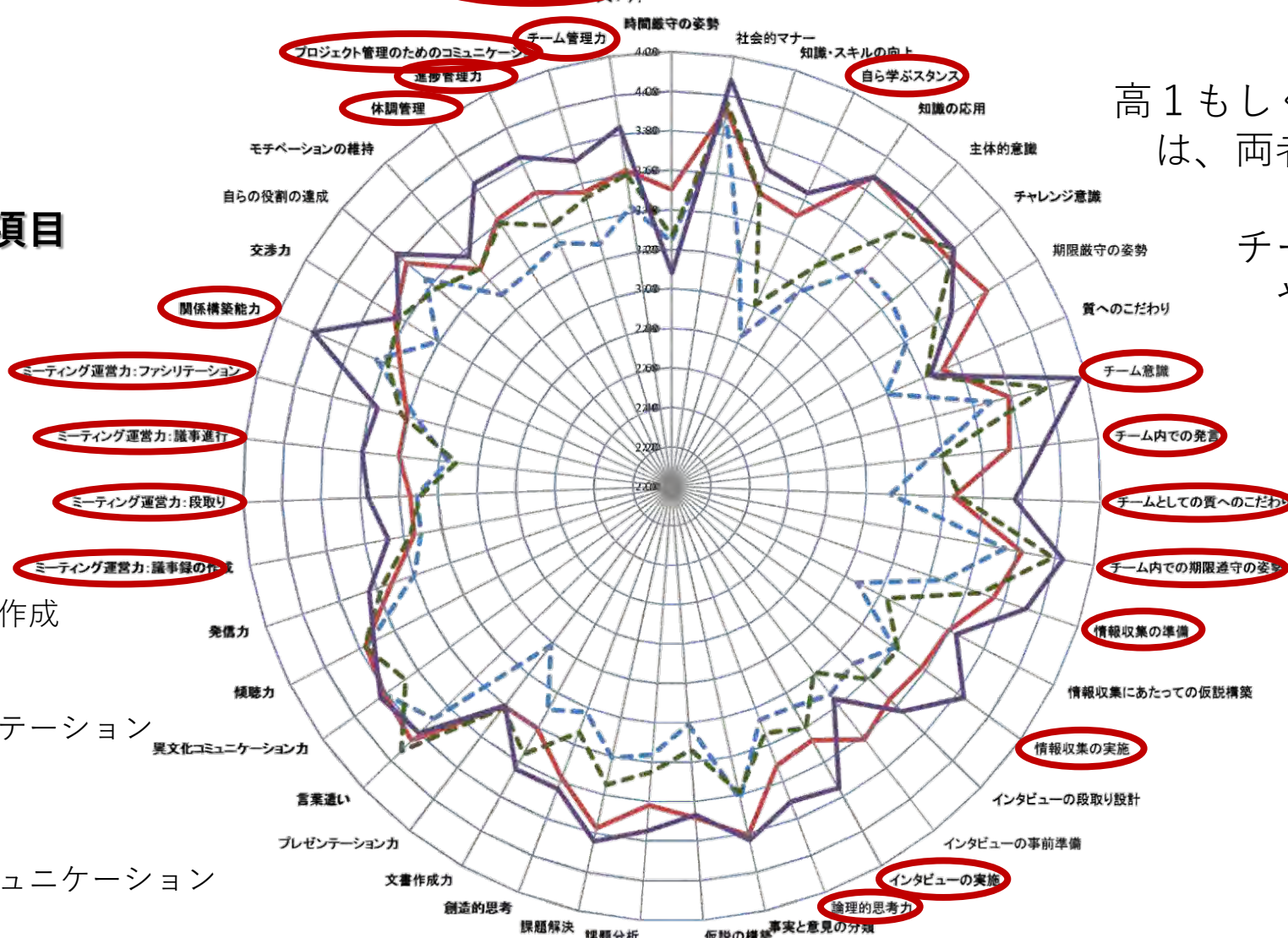
紫実線がWWL高3

高1もしくは高2の破線は、両者とも似た傾向

チームで行う能力やミーティング運営力がWWLでSGHより伸びていることがわかる

WWLでSGHより伸びた項目

- 自ら学ぶスタンス
- チーム意識
- チーム内での発言
- チームとしての質へのこだわり
- チーム内での期限遵守の姿勢
- 情報収集の準備
- 情報収集の実施
- インタビューの実施
- 論理的思考力
- ミーティング運営力：議事録の作成
- ミーティング運営力：段取り
- ミーティング運営力：議事進行
- ミーティング運営力：ファシリテーション
- 関係構築能力
- 体調管理
- 進捗管理力
- プロジェクト管理のためのコミュニケーション
- チーム管理力



コロナ禍で動いた生徒たち

< 生徒の行動例 >

* 時間の使い方コンテストから (HPにもあり)

- * 自分で計画を立て、授業以外で毎日5時間勉強
- * 毎朝ランニングを20~30分続けました。早寝早起きを続けられました。
- * 毎日夜まで母が仕事であるため、家事全般を自分が担当。
少しでも夜まで仕事の母を楽にさせてあげられるように動いた
- * 中高吹奏楽部の部員を募りテレワーク演奏実施
- * 京丹後の活性化プロジェクトに向けた、ミーティング主催の準備
- * ガウンを50着作り、病院に寄付。日常を崩さない。
- * ISN国際会議開催のための会議参加と準備

教員も変化・成長する！

教科の取り組みとコア探究をつなぎ始める！

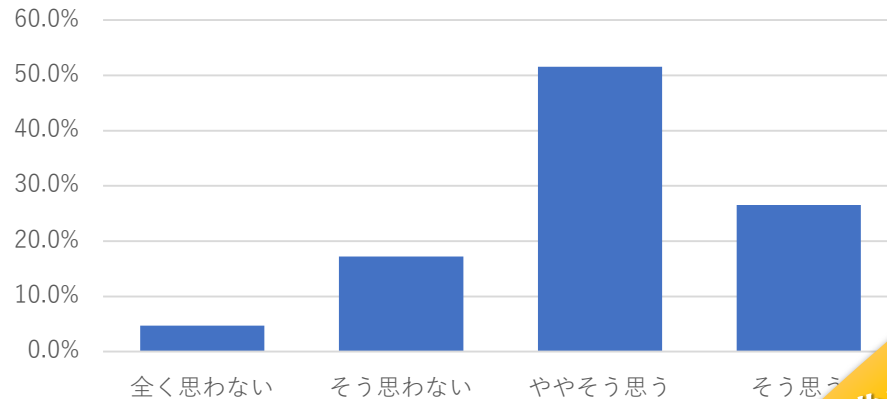
各教科の取り組み (一例)

- ・ 政治経済：コアの取り組みをブラッシュアップ→宇治市議会へ
- ・ 国語：論述課題のレポートをコア探究のものに
- ・ 英語：スピーチのテーマ探しでコアの手法を使う
- (硬式野球部)：クラブのミーティングでコアの手法を使う

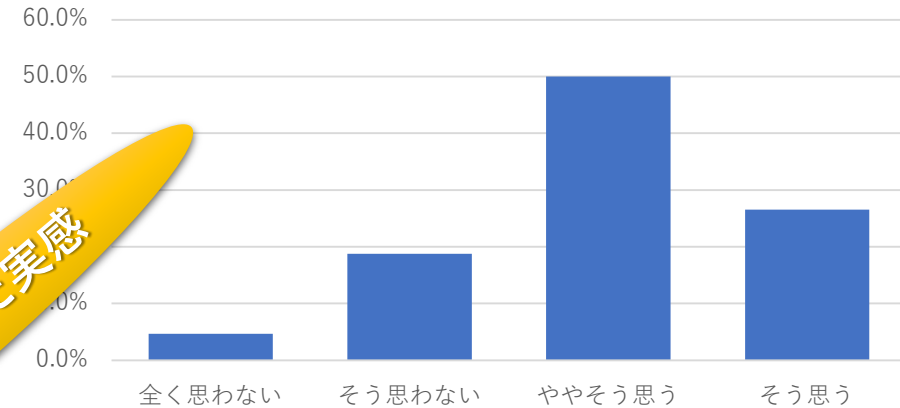
教員の実感

おおむね、実感を持ち、教員への一定の広がりを見せた

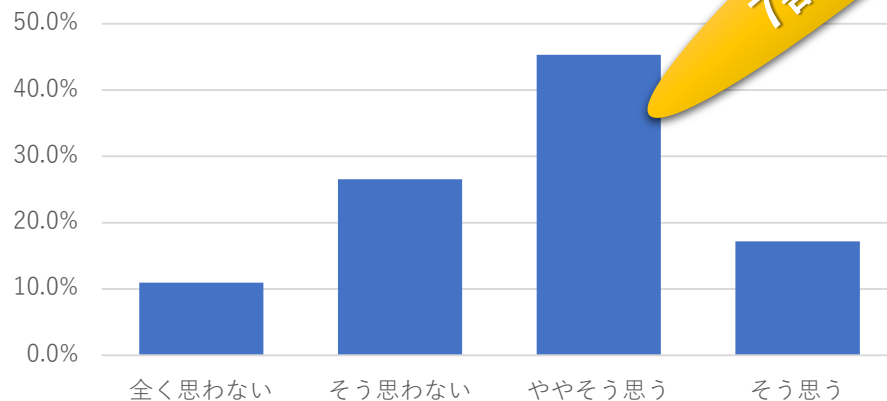
本校の探究学習は進んだと思われませんか



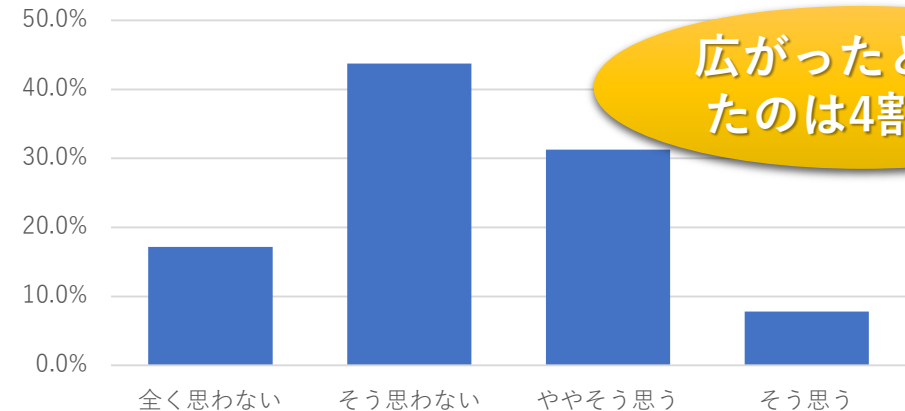
社会と生徒のかかわりが進んだと思われませんか



本校の国際化は進んだと思われませんか



WWLの取り組みが教員全体に広がったと思われませんか

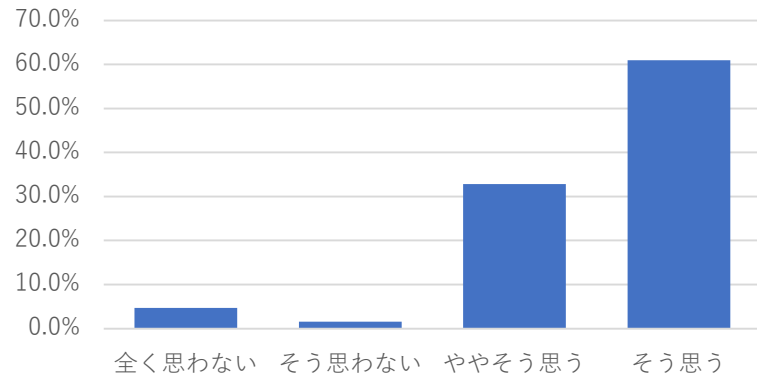


7割前後が進んだ実感

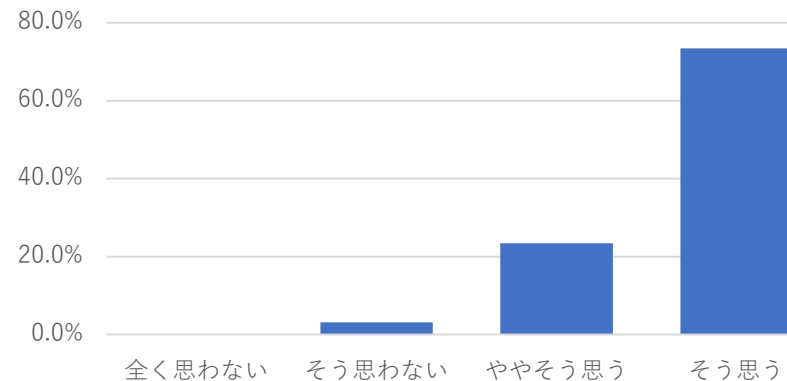
広がったと答え たのは4割だが

教員の実感

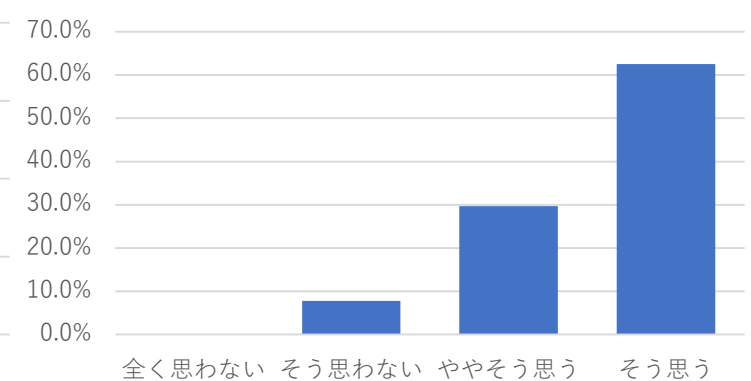
今後も探究学習を推進していくべきか



今後も生徒と社会とのかかわりを推進していくべきか



今後も国際化を推進していくべきか



ほぼすべての教員がWWLの新しい学びを継続させることを期待
生徒の成長を共有する機会を生徒・教員ともに増やすことは必要

本日の話題・・・WWL総括と展望

- 1 3年間を終えるにあたって少し長めの所感
- 2 構想目的と目標
- 3 何が実現したか
- 4 コロナ禍での対応とそれ以降
- 5 生徒たちの成長につながったか
- 6 **課題となったこと・今後に向けて**

探究を進めるうえで大切なこと

育っていた環境、言語、特技など生徒によって全く違う
= 学校生活で打ち込みたいものも多様

尖った部分だけ伸ばしても、
 学校全体の教育力が高いとは言えない。一部のものになる。

裾野だけが広くても、
 生徒の可能性を引き出せない。
 何より面白くない！

探究の授業では広げられたが
 コロナ禍で、
 留学生受入・交流の
 増加は難しかった
 海外の事情は様々

今後
 オンライン含め
 交流を拡大

・より尖らせる
 (一部の生徒)

・裾野を広げる
 (全員対象)

両方が重要！

バランス感覚は重要

コロナ禍でできなかったこと

- ・ APUの海外プログラム FIRST をAP化

2022年度以降できるタイミングで

- ・ すそ野を広げる海外連携校との交流プログラム強化

オンラインを組み合わせてより日常的にようやく開始

- ・ 土曜講座の活用で様々なニーズに対応する講座

正課のオンライン授業等の遅れ対策で物理的に実施不可能に

ALネットワークの価値

- ・ 1月21日・22日開催の研究報告会にて

ALネットワークの価値を参加団体で確認

機会を増やす・負担を減らす
混ざる教育

継続・発展させるべき新しい教育の挑戦

予算がなくてもできる仕組み 1

受益者負担の考え方と実施意義を共有

- ・ 海外の学校主催の国際会議例・・・1名あたり500ドルの参加費徴収
宿泊・食事・現地空港到着から出発までの一切と記念品まで
- ・ 生徒が主体となる文化の定着
生徒の動きが生徒の成長と周りの巻き込みや理解につながる
- ・ カリキュラムマップと生徒の変容の共有
やっていることの意味を、教員・生徒の双方が理解できる

予算がなくてもできる仕組み 2

連携団体と win-win・PTAの巻込・NPO設立も

- ・ 連携団体へ職員研修の場を提供で win-win の関係
ファシリテーターは研修の一環になる
- ・ PTAの協力・教育後援会
台湾ではPTAの協力が厚い・教育後援会から予算確保
- ・ NPOなどの設立で資金と人材確保
ネットワーク事業をNPOが担当

予算がなくてもできる仕組み 3

連携校でプログラムの共有・分担

- ・ 連携校・連携団体でプログラムを共有・分担

担当校の実施共有で一校当たりの負担が減る

各校の得意分野でプログラムを高度化できる

→ 具体例 宮崎大宮高等学校のウィンターサイエンスプログラム

一つのプログラム内でも担当を分担し合うことで負担軽減

→ 具体例 全国高校生SRサミットFOCUS 事前研修を分担

連携団体が主体となってプログラムを提供

→ 具体例 FLAG

ALネットワーク

今後に向けて



- ・オンラインの場合は、オフライン以上に・・・

事前学習と参加者の一体感醸成・質問事項のシミュレーションが必要
学んだことの言語化、振り返りの充実が必要
参加者同士のコミュニケーションをとれる交流の場を意識的に増やすことが必要
機会を増やし体験できる生徒数を増やす

- ・生徒の可能性を制限しない

- ・アントレプレナーシップ

アントレプレナーシップセンターなどの組織立ち上げ

- ・オンラインとオフラインの融合を意識し・・・

例えば 事前研修や事後研修はオンライン、海外研修はオフラインで実際に対面
オフライン中心の時も、オンラインツールの活用で計画や意見、振り返りを共有

Society5.0を切り開く教育
～WWL拠点校としてフラッグシップを掲げる日本随一の実践～

今後の発展のために イノベーティブなグローバル人材育成の模索

- ・ **教員もイノベーティブに** 攻めの姿勢を持ち続ける
- ・ **巻き込み力・造山力**をもつ生徒（教員も）の育成
Social Entrepreneurshipへの挑戦
ALネットワークの知恵を総動員
- ・ **体系化 でも アジャイル的発想も**
カリキュラムマップ・不変の部分と変化に柔軟な部分
いつ・どの生徒に（個別最適化）
どのような教育（交流やプロジェクト・発表の機会を含む）を提供するか

外部での紹介等成果

経団連の二次提言コラムにSRサミットが取り上げられました。

<https://www.keidanren.or.jp/policy/2020/110.html>

文科省の特別活動の取組紹介に本校のリモートHRの事例が取り上げられました。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00941.html

内田洋行 学びの場.com・カタリバのWebページに酒井淳平先生の記事が掲載されました。

https://www.manabinoba.com/tsurezure/author/_185/

<https://www.katariba.or.jp/magazine/article/column200609/>



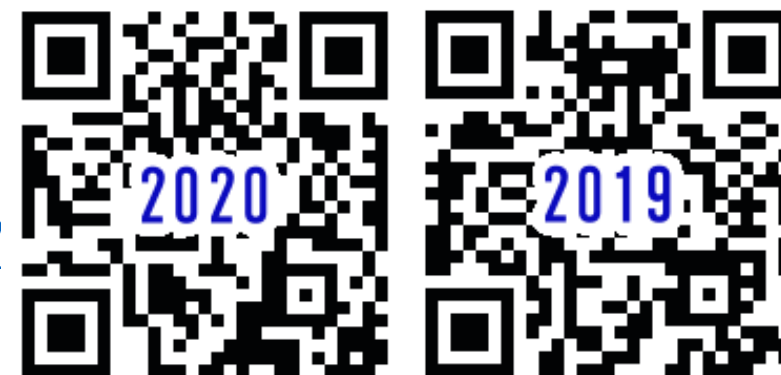
成果物（報告書）

2019報告書 連携企業との覚書や連携校から参加する海外研修参加同意書なども含む

https://www.ujc.ritsumei.ac.jp/ujc_e/wwl_event/2019%e5%b9%b4%e5%ba%a6wwl%e6%a7%8b%e7%af%89%e6%94%af%e6%8f%b4%e4%ba%8b%e6%a5%ad%e7%a0%94%e7%a9%b6%e5%a0%b1%e5%91%8a%e6%9b%b8%e3%81%ae%e5%85%ac%e9%96%8b%e3%81%ab%e3%81%a4%e3%81%84%e3%81%a6/

2020報告書

https://www.ujc.ritsumei.ac.jp/ujc_e/wwl_event/reports2020/



成果物（ビデオ・資料）

全国高校生SRサミットFOCUS2021 募集動画

<https://www.youtube.com/watch?v=tLC3IPvKzG8> (英語)

https://youtu.be/_nz0GeHjEko (日本語)

<https://sites.google.com/view/focus2021gobeyond/home> (WebSite)

公開授業実施内容、ポスターセッション・基調講演・パネルディスカッション資料

https://www.ujc.ritsumei.ac.jp/ujc/wwl/c1_WWL_workshop2020_materials.pdf

<https://www.youtube.com/watch?v=fBoAXaPAVeM>

ALネットワーク生徒の記録（教材等でご自由にお使いください）

2020年立命館宇治高等学校WAKKAグループラオス支援プロジェクト

<https://www.youtube.com/watch?v=vxrwZyc2tDM>

2020年度愛媛県立三崎高等学校せんたん部地域創生プロジェクト

<https://youtu.be/NQaXyPdkQEM>

2020年度福岡雙葉高等学校日田杉を用いた"かしつ木"プロジェクト

<https://youtu.be/FRL93u1ZbtM>

2019-2020立命館宇治らおにんラオス支援プロジェクトとWWL ALネットワーク

<https://youtu.be/jBbq3pLa-yA>



研究会2019



FOCUS募集



三崎



WAKKA



雙葉



LAOS

R RITSUMEIKAN

立命館宇治中学校・高等学校



Learning

Expression

Life

学んだぶんだけ
世界が近くなる

ありがとうございました



World Wide Learning

Your Link to the World